

# 大阪港開港150年記念シンポジウム

市民の港として発展してきた大阪港の歴史と重要性を再確認する基調講演と、未来に向け更に飛躍する大阪港のあるべき姿について考えるパネルディスカッションを行いました。

- ▶ 実施日時 平成29年7月15日(土) 9:00~12:00
- ▶ 実施場所 ハイアットリージェンシー大阪 リージェンシーボールルーム
- ▶ プログラム



第一部 基調講演	
主催者挨拶	藪内 弘(大阪市港湾局長)
基調講演	橋爪 紳也(大阪市特別顧問、大阪府立大学観光産業戦略研究所長)
第二部 パネルディスカッション	
パネルディスカッション	<p>◎パネリスト：森 隆行(流通科学大学商学部教授)                  武内 紀子(株式会社コングレ代表取締役社長)                  古川 実(日立造船株式会社 相談役)</p> <p>◎ファシリテーター：橋爪 紳也                  (大阪市特別顧問、大阪府立大学観光産業戦略研究所長)</p>

## 基調講演

**橋爪 紳也**  
 大阪市特別顧問、  
 大阪府立大学  
 観光産業戦略研究所長



〈プロフィール〉  
 昭和35年大阪市生まれ。京都大学工学部建築学科卒。同大学院修士課程、大阪大学大学院博士課程修了、建築史・都市文化論専攻。工学博士。  
 大阪府立大学大学院経済学研究科教授、大阪府立大学観光産業戦略研究所長。大阪市立大学都市研究プラザ客員教授。『「水都」大阪物語』『瀬戸内海モダニズム周遊』ほか著書多数。大阪府特別顧問、大阪市特別顧問、大阪府市文化振興会議会長、大阪府河川水辺賑わいづくり審議会会長、光のまちづくり推進委員会会長、イベント学会副会長などを兼職。

**演題** 「大阪港の未来戦略  
 (港湾都市としての現在、過去、未来)」

## 記念シンポジウム

〈 基調講演概要 〉  
 大阪の港は、150年間、難波津から考えればさらに長い間、港湾機能の発展とともに、再開発を繰り返しながら、大阪の港湾都市という歴史を刻んできました。しかし、この150年で港は劇的に変化しています。50年先、100年先のことは予測もつきません。それでも、われわれは、未来のことを思い描き、1歩、2歩進まなければなりません。都市とともに港は発展します。大阪の街が変われば、港も変わる。そういった都市と港の関係性の中で、将来の港を生み出していく。全ては、次世代のために、今、知恵を絞るべきでしょう。

## パネルディスカッション

大阪港の未来戦略をテーマに、大阪港の将来像について、物流、産業、観光の各界の有識者に、それぞれの専門分野から、プレゼンテーションおよびパネルディスカッションを通じて多角的に語っていただきました。

### 森 隆行

流通科学大学  
商学部教授



#### 〈 プロフィール 〉

昭和50年大阪市立大学商学部卒業。大阪商船三井船舶株式会社入社（現 株式会社商船三井）。平成18年商船三井退職、流通科学大学教授に就任、現在に至る。タイ王国マエファルーン大学客員教授、大阪市港湾審議会会長、日本海運経済学会常任理事などを務める。

#### 〈 主な発言 〉

- 大阪港は、近未来に、日本政府挙げての取り組みである「コールドチェーン（温度管理の必要な物流）」にのっかり、食品の輸出を頑張りましょう。
- ちょっと先の未来では、「インダストリー4.0」時代の物流・港湾、これを想定して、あり方を考えてほしい。
- 今までの港ではない、「未来の港」を、日本に先駆けて、世界に先駆けて作れば、トップランナーに躍り出ることも可能だと思うので、それを念頭に置きながら進めていただきたい。

### 武内 紀子

株式会社コングレ  
代表取締役社長



#### 〈 プロフィール 〉

大阪大学人間科学部卒業後、コンベンション企画運営会社で博覧会、イベント等の運営を担当。平成2年コングレ設立に参画、平成13年に取締役営業企画部長に就任、常務取締役、代表取締役専務を経て、平成25年6月より現職。一般社団法人日本コンベンション協会（JCMA）代表理事等を務める。

#### 〈 主な発言 〉

- 臨海地区をMICEで活性化していくというのも、1つの大きな方向である。
- 大阪全体、夢洲、咲洲の話をしたが、エリアMICEという発想がある。エリアMICEは、MICEをより拡大したもので、大阪では、中之島、大阪国際会議場、グランフロント大阪のコンベンションセンターなど、それぞれがMICEに関心を持って動いている。一つ一つの建物間の距離が遠いが、街ごとできる、都市ジャックのようなMICEを臨海地区の核にできればと考えている。

### 古川 実

日立造船株式会社  
相談役



#### 〈 プロフィール 〉

大阪大学経済学部卒業。昭和41年日立造船株式会社入社。昭和51年から約8年間の海外駐在を経験。平成13年代表取締役専務取締役業務管理統轄、平成17年代表取締役社長、平成22年代表取締役会長兼社長、平成25年代表取締役会長兼CEO等を歴任。平成29年6月より現職。また、大阪商工会議所副会頭、大阪府工業会副会長等、財界・業界の数多くの要職を務める。

#### 〈 主な発言 〉

- 大阪港の高機能物流拠点化には、ソフト、ハードの強化が必要になる。ソフトの強化として、ICT、IoT、GPS、人工知能を活用した荷主の利便性等の向上、ハードの強化として、港湾荷役を支援する自動化クレーン、GPSを活用したコンテナ配置など、荷役支援システムの活用を進めていただきたい。
- 関西空港と神戸港との連携を図ることで、海空陸のワンストップ物流拠点としての活用を期待している。